

## 第1回追加Summer Institute（韓国短期派遣事業）に参加して

●慶應義塾大学大学院 黄 幸江

### ①応募したきっかけ

私が所属する研究室の指導教員の紹介で、ホスト先の研究室を知りました。ホスト先は私が研究する表面物理を専門とする研究室なので、韓国での滞在は、きっと学ぶことがたくさんあると思い、応募しました。また、海外の研究室を訪問することによって、向こうの学生さんとの交流ができ、自分の視野を広げるいい機会だと思いました。

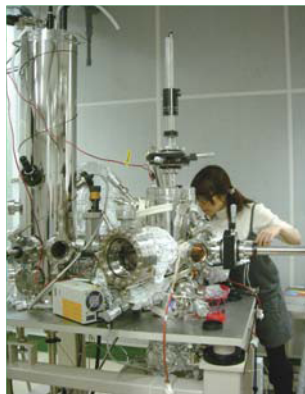
### ②事前準備

まず、ホスト教授に私の研究テーマを理解して頂けるよう、実験データおよび最近の実験状況をまとめたパワーポイントをメールで送りました。次に、ホスト教授や研究室のウェブサイトから、ホスト先の実験設備、また、最近投稿された論文などをチェックしました。事前に、ホスト教授と幾度か連絡をとったり、ホスト先の研究環境を知っておくことで、47日間という限られた期間の中、スムーズに研究を進めることが出来ました。また、韓国語「会話ブック」を購入し、事前に読んでおきました。

### ③この研修を通じて得たもの

この研修を通じて得たものは三つあります。1) 2日間の文化研修を通して、韓国の伝統文化を実体験できたことです。初日は韓国の伝統衣装（チマチョゴリ）を着ながら、韓国茶道や礼儀作法を教わり、キムチ作りも体験しました。二日目は、伝統音楽や民族舞踊などを観賞しました。人間文化財に指定されている方たちも出演されているということで、大変貴重な経験をさせて頂きました。2) ホスト先での研究

を通して、今後の私の研究に必要な実験手法、「走査トンネル分光法」を学び、韓国の学生さんたちと同じ分野を研究する者同士、自分たちの経験や知識をシェアすることが出来ました。3) この研修から得た最も大きな財産は、人情感溢れる研究室の人と深い交流を築けたことです。韓国語が話せない私にとって、



▲STM実験の様子

どんなに説明が難しい質問でも辞書を引きながら、全てに答えようと試みてくれました。そして、ホスト教授や学生さんたち、さらにはマンドゥ（韓国の餃子）の鉄人と呼ばれる学生さんのお母さんにも、韓国の家庭料理をおもてなし頂いたり、沢山の場面でおもてなし頂きました。この交流を通して、研究以外に学んだことが沢山あり大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。



▲韓国の学生さん宅にて。テーブル一杯に並んだ韓国家庭料理とマンドゥのおもてなし

### ④参加する人へのアドバイス

私は事前にホスト教授としか連絡を取っていませんでしたが、実際は、向こうの学生さんたちとほとんどの時間を共に過ごすので、事前の準備として、これからお世話になる学生さんたちにもメールを送っておくと思います。また韓国の学生さんたちは、カラオケが日常の娯楽の一つとして挙げられるので、ぜひ、韓国の曲を一曲歌えるようにしておくといいでしょう。海外での研究生活に、少し不安を感じることもあると思いますが、日本と韓国は異なる文化を持つ反面、共通点もたくさんあるので、自然と打ち解けることが出来ると思います。そして、研修を終え日本に戻ってきた時には、また韓国に行きたい!と思うほど、沢山のいい思い出が出来ることでしょう。

委託：日韓文化交流基金

主催：日韓産業技術協力財団

企画：JISTEC